

図4 橋梁部におけるCRCP端部構造の設計
[RMS MD.R83.CC2010]

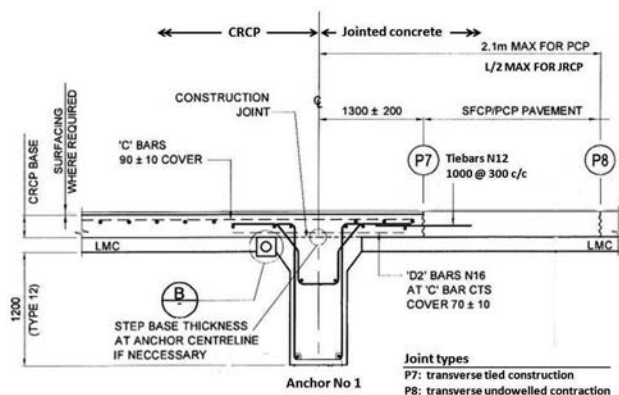


図6 CRCPとJCPとの接続
[RMS MD.R83.CP2010]

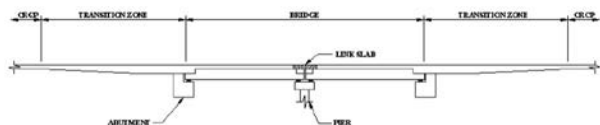


図5 シームレス舗装のコンセプト
[Griffiths et al. 2006]

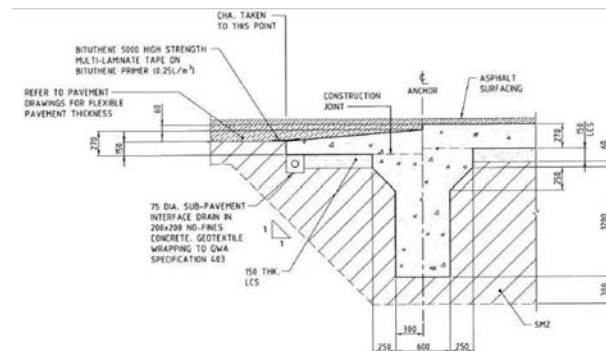


図7 アスファルト舗装との接続部の勾配付き定着梁構造
[GWA2014]

アフリカ、オーストラリア、ベルギーの4例を紹介する。

2. CRCP定着梁構造

定着梁はコンクリートの水平方向での収縮や膨張による変形を防ぐための標準的な端部構造である。定着梁数はおおむね5m間隔で3本あればどの路床や地盤でも版の動きを拘束できると言われ、CRCP版延長が150m以下なら2つ以下にできる。定着梁の個数は、CRCP版の長さによって異なるが、150m以上の場合3つが用いられる。

3. 橋梁踏掛版

踏掛版は、地盤の全体的な沈下および局所的な沈下に対応できるようにする必要があり、橋脚との接合方法や、設置角度等に各国の特徴が示されている(図2, 3)。

4. CRCP/橋梁など剛性構造との接続

オーストラリアの例を図4に示す。そのほか、図5のような目地なし構造も検討されている。

5. 普通コンクリート舗装との接続

最近では、普通コンクリート舗装(JCP)とCRCPの接合部を図6のように定着梁をその境目とする場合がある。

6. アスファルト舗装との接続

アスファルト舗装とCRCPの接続部の設計も各国で様式異なるが、定着梁やすりつけ版が用いられている。また、図7のように暗渠排水路を設置し、水の浸透に対して対策している場合もある。

*

*

*